

村田琴伴 むらた ことへ 小説家。明治十九年東京生れ、四十年一月十七日歿（一八八六—一九〇七）。本名光子。祖父は水戸の弘道館教官寺門眞郷。東京府立第一高等女學校に入る。縁で文藝に親しみ、國木田獨步、泉鏡花、薄田泣菫、與謝野晶子を好んだ。明治二十七年實家と交はりのある岡崎遠光の推し幸田露伴の門に入り、處女作『花一時』はなひとときを發表。二十九
 年郷里水戸に赴き、同郷の文學士に歸ぐも、婚家の酷薄な待遇に苦し
 み、數月にして還つて離婚訴訟中、産褥に胎兒と共に逝つた（蠅牛門
 の一時の花く）（蠅牛門）。

「若き士官」等十篇の小説、短詩を収めた『琴の音』（幸田露伴補）、
 明治四十年七月二十日春陽堂（）がある。

